

高速な中員環形成法を鍵工程とする高歪み天然薬理活性ラクトン類の不斉合成研究
 Asymmetric Total Synthesis of Optically Active Natural Compounds Consisting Medium Sized
 Rings by Means of A New and Rapid Lactonization

○椎名 勇¹(¹東京理大理)

近年の有機合成技術の進歩は目覚ましく、これまでは開発が不可能と考えられていた数々の新しい物質変換法が見出され、これに伴い様々な構造をもつ有機分子の調製も可能となっている。しかしながら、現在の高度技術をもってしても全合成を達成することが困難な化合物も多数残存しており、それらには巨大分子量海洋産物質、多数のヘテロ元素と不斉炭素を含む高次構造分子、さらには歪んだ骨格を含む中員環状化合物などが挙げられる。特に、無数に存在する天然有機物の中にあつて単環性の飽和型8および9員環構造を有するラクトン類は現在までにわずか数種類が発見されたに過ぎず、これら異型な構造を有する天然物の合成研究は興味深い課題である。

本講演では、我々がこれまで独自に開発した高速なラクトン環構築法について予め紹介し、引き続き、不斉アルドール反応を基盤技術とするポリオキシ化合物群の簡便な調製法を組み合わせ実現した天然中員環ラクトン類の不斉全合成研究について詳細を報告する。

